

製品名: IKK ベータウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab01338**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	リン酸緩衝生理食塩水中のウサギ IgG、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%アジ化ナトリウムおよび50%グリセロール。
精製	アフィニティークロマトグラフィー

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	Calculated MW: 87 kDa; Observed MW: 87 kDa

抗原情報

遺伝子名	IKBKB IKBKB; IKKB; Inhibitor of nuclear factor kappa-B kinase subunit beta; I-kappa-B-kinase beta;
別名	IKK-B; IKK-beta; Ikbkb; I-kappa-B kinase 2; IKK2; Nuclear factor NF-kappa-B inhibitor kinase beta; NFKBIKB
遺伝子 ID	3551
SwissProt ID	O14920
免疫原	ヒト IKK α / β の組み換えタンパク質

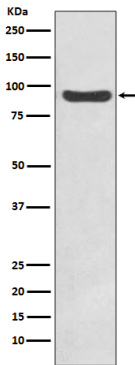
背景

NF- κ B/Rel 転写因子は、細胞質中で不活性な状態で存在し、阻害性 I κ B タンパク質と複合体を形成しています (1-3)。NF- κ B を活性化する因子のほとんどは、リン酸化誘導性プロテアソームを介した I κ B 分解に基づく共通経路を介して活性化します (3-7)。この経路における重要な制御ステップは、高分子 I κ B キナーゼ (IKK) 複合体の活性化であり、その触媒作用は通常、3つの密接に会合した IKK サブユニットによって行われます。

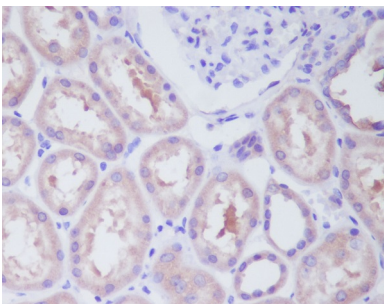
研究分野

シグナル伝達

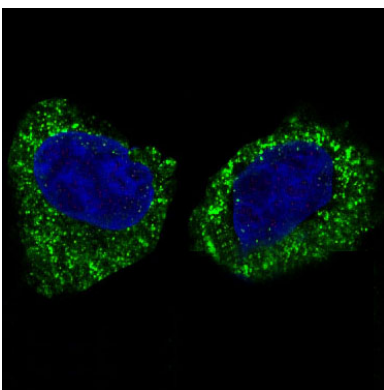
画像データ



IKK ベータ抗体を使用した HeLa 溶解物中の IKK ベータのウェスタンブロット分析。



IKK ベータ抗体を使用したパラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。



IKK ベータ抗体を用いた HeLa の IKK ベータの免疫蛍光分析。